○他都市比較調査の結果

都市名	調査理由	人口数 （2016年）	JNTO国際会議開催 件数（2014年） ※件数/外国人参加者 /参加総数	取組のポイント
富山市	○中核市 ○国際会議観光都市 ○国際会議場あり ○G7富山環境大臣会合 開催都市	約42万人	11件/348人 /2,859人	○県、市、会議場、富山コンベンションビューローによる**MICE推進の効果的連携**の仕組み ○環境分野の国際会議は、市長がトップセールスを行い、**市をあげて誘致**を行っている ○MICEに必要な施設、商業施設のほとんどが富山駅、富山空港から15分圏内に存在。 LRTがその中心を走り、**コンパクトシティとしての利点を活かしている**
金沢市	○中核市 ○国際会議観光都市 ○北陸新幹線開業を 捉えた戦略的な プロモーション	約46万人	22件/1,048人 /5,787人	○国際会議場は持たないが、JR金沢駅前のホテルを中心に、1万人～2万人の会議に対応できる実績 ○市が主に狙うMICEの**規模は1,000人以下**。市内を回遊させ、**回数を多く開催**する狙い ○**県との役割分担、連携が課題** ○**人材育成の課題**
岡山市	○近隣の競合都市 ○国際会議観光都市 ○MICE複合施設（国際 会議場／国際展示場 ／併設ホテル） ○連携の可能性	約72万人	33件/3,001人 /26,613人	○MICE分野を明確化。マーケテイング調査を重ね、戦略策定前段階。現在も調査中 ○**岡山大学とのMICE誘致連携**の協定を締結している ○**新たなMICE施設**の検討など、コンベンションシティ構築に向けて推進中 ○**スポーツをMICE**に取り込んでいる ○知名度の高い**倉敷との連携**を強め、補完関係にある
松山市	○中核市 ○国際会議観光都市 ○近隣の競合都市 ○連携の可能性	約52万人	5件/138人 /1,408人	○MICE施設、宿泊施設とも四国最大規模 ○**海外展示会**に頻繁に出展 ○インセンティブ・ツアーに力を入れ、**グローバルなセールスを展開** ○国際会議誘致の課題 ○**情報管理、調査、研究に予算を確保**している
長崎市	○中核市 ○国際会議観光都市 ○積極的なMICE振興	約43万人	5件/148人 /7,971人	○1万人の学会開催の実績があるが、施設不足から大型MICEの取りこぼしが発生 ○**国際会議誘致を狙う**ため、**大規模MICE施設の建設**計画を進めている ○誘致体制強化の課題 ○**長崎大学とのMICE誘致連携**の協定を締結している ○MICE推進の目的は、**産業活性、ビジネス創出**
高松市	－	約42万人	2件/182人 /446人	○**ウォーターフロントのMICE施設集積** ○**国際会議の実績蓄積** （G7香川・高松情報通信大臣会合、日仏自治体交流会議、アジア太平洋盆栽水石高松大会など） ○MICE施設間の連携が不十分（施設間の連携）
シンガポール	○MICE競合海外都市	約540万人	－	○MICEを巧みに活用し、**都市の成長**を図る ○MICEの**分野を限定**（インフラ、運輸、科学、情報技術・メディア、環境・エネルギーなど） ○都市の集積を重視し、**MICE推進にあわせ、研究機関、大学の誘致や専門家のヘッドハンティング** ○**ビジネス機会の増大、起業、情報のハブ化**にMICEを戦略的に活用 ○日本を競争相手として意識している
香港	○H28.7に直行便が就航	約720万人	－	○MICEの意義を**都市ブランド強化**においている ○観光資源のMICE化に優れ、**インセンティブツアーを重点的に展開** ○**発達したインバウンド・インフラ**上にMICEを構築 ○観光とMICEをうまく併存させている ○**コンパクトシティ**で立地をMICEに活かしている

※ヒアリング及び文献調査等により作成